


論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

氏名	A GARU	
学位論文名	Effect of Multimorbidity on Fragility Fractures in Community-dwelling Older Adults: Shimane CoHRE Study	
学位論文審査委員	主査 副査 副査	金崎 啓造 馬庭 壯吉 田村 太朗 
論文審査の結果の要旨		
<p>脆弱性骨折は、交通事故や高所からの転落などの外傷性骨折を除外した、通常では骨折しない軽微な外力による骨折として定義され、高齢者において多発し、転倒頻度増加と関連する。脆弱性骨折・転倒の発生は、薬剤や生活習慣、併存疾患と関連するとも考えられ、事実、睡眠導入薬、ステロイドの使用や喫煙、慢性関節リウマチ(RA)、糖尿病による脆弱性骨折リスクの増加が知られている。高齢者では複数疾患の罹患や多薬剤投与が高頻度に認められるため、多疾患重積が脆弱性骨折リスクとなるかを明らかにすることを目的として、島根県内の住民健診コホートデータを利用し、60才以上の1420人を対象とした後ろ向き研究を実施した。脆弱性骨折の頻度に関して、過去5年間では女性(15.3%)が男性(4.9%)の約3倍であり、男性ではRA、両親の大腿骨近位部骨折既往と関連し、女性ではRAおよび降圧薬使用と正の相関、脂質異常症や高脂血症治療薬の使用とは負の相関を認めた。年齢調整 Charlson Comorbidity (ACC) Indexによる多疾患重積の影響を分析したところ、ACC Index (1-3)群に比較してACC Index (&gt;6)群では、脆弱性骨折リスクの有意な上昇が認められた。多重ロジスティック回帰分析から、ACC Indexは、女性、過去1年間の転倒、両親の大腿骨近位部骨折の既往と独立して脆弱性骨折リスク上昇と有意に関連していた。以上から、高齢者における多疾患重積は脆弱性骨折リスクに寄与し、ACC Indexがそのリスク評価に有用である可能性が示された。</p>		
最終試験又は学力の確認の結果の要旨		
<p>申請者は多疾患重積が脆弱性骨折リスクとなることを住民健診コホートデータ解析をもとに導き出した。また女性・男性の間におけるリスク因子の相違に関しても興味深い解析結果が得られ、今後のさらなる解析につながる仮説も提供された。発表会での受け答えや背景知識も十分であり、博士の学位を授与するに値する。(主査：金崎 啓造)</p>		
<p>島根県内の高齢者において、年齢調整Charlson Comorbidity (ACC) Indexで表される多疾患重積が脆弱性骨折リスクとなることを明らかにした重要な論文です。高齢化が進行する日本の医療に有益な情報を提供しています。関連知識も豊富で、質疑応答も的確になされており、学位に値すると判断いたします。(副査：馬庭 壯吉)</p>		
<p>申請者はACC Indexによる島根県高齢者における脆弱性骨折の危険性について評価を行った。これは高齢者の骨折の危険の予測や、予防に寄与できる結果であり、質疑応答の適切さも踏まえ、学位授与に値すると判断した。(副査：田村 太朗)</p>		